

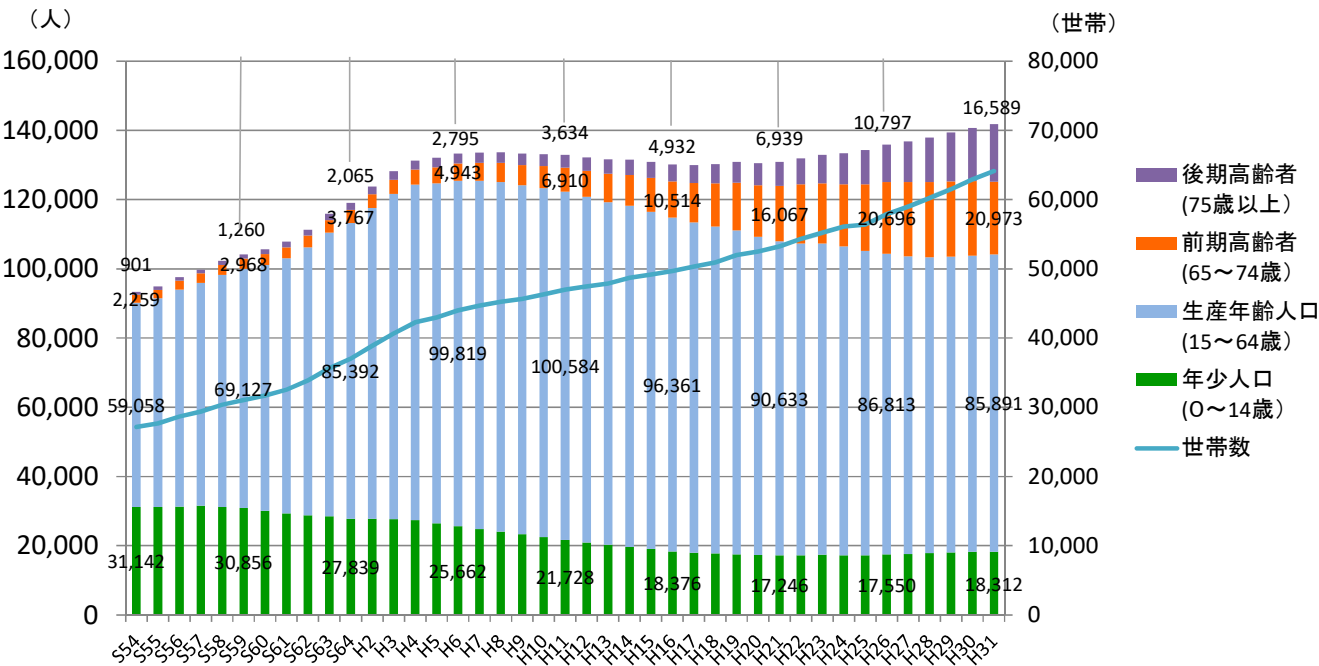
第2章 三郷市の状況

1 人口・世帯の推移

1-1 人口

- 平成 6 年までは人口増が続いていましたが、平成 7 年から平成 17 年までは緩やかな人口減少傾向に転じました。
- その後、人口は再度増加傾向となっており、特に平成 27 年以降は人口の伸びが大きくなっています。
- 世帯数は、継続的に増加傾向となっています。
- 年齢別では、従来は年少人口が高齢者人口を大幅に上回っていましたが、平成 18 年に高齢者人口の方が多くなりました。
- 近年では、前期高齢者人口は微増ですが、後期高齢者人口は急増しています。

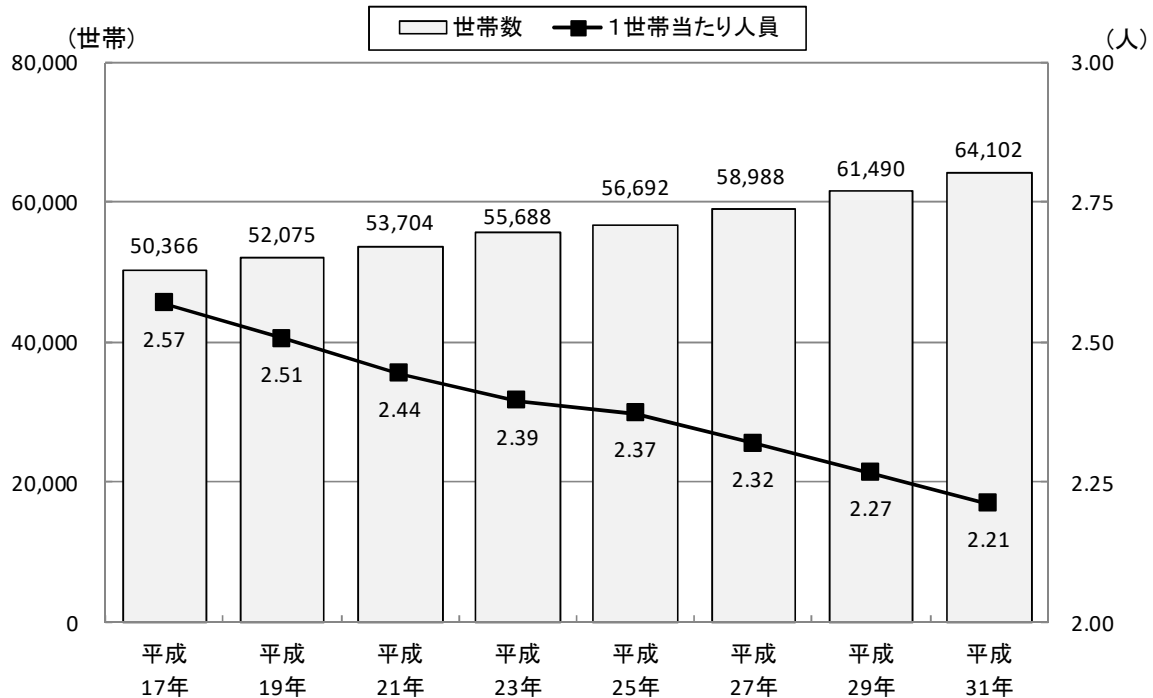
◆昭和 54 年から平成 31 年までの総人口・世帯数の推移



資料:住民基本台帳人口(4月1日人口)

1-2 世帯

世帯数は増加傾向にあります、1世帯当たりの人員は減少傾向が続いています。



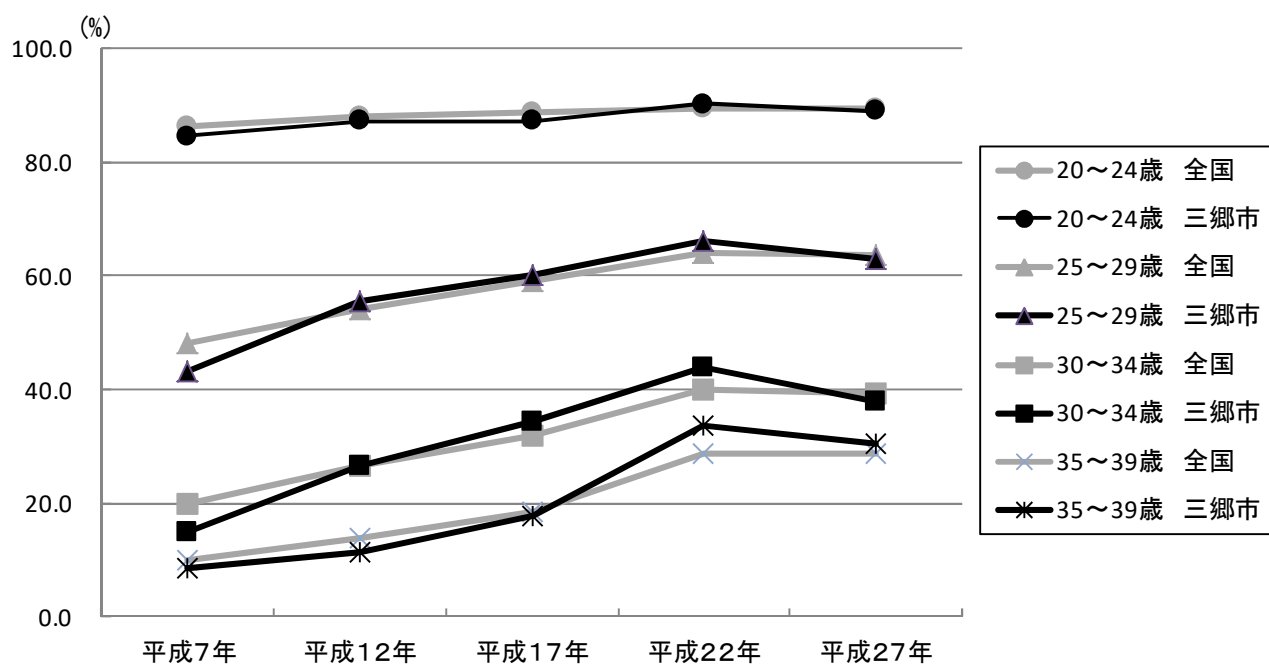
	世帯数	1世帯当たり人員
平成 17 年	50,366 世帯	2.57 人
19 年	52,075 世帯	2.51 人
21 年	53,704 世帯	2.44 人
23 年	55,688 世帯	2.39 人
25 年	56,692 世帯	2.37 人
27 年	58,988 世帯	2.32 人
29 年	61,490 世帯	2.27 人
31 年	64,102 世帯	2.21 人

資料：みさと統計書（各年4月1日現在）

2 婚姻・出産・就業等の推移

2-1 未婚率

未婚率については、平成22年までは全国、三郷市ともに増加傾向が続いていました。特に平成17年から22年にかけて三郷市の増加の度合いが高くなり、未婚率は全年代で三郷市が全国を上回りました。その後平成22年から27年にかけて、全国、三郷市ともに未婚率は減少していますが、平成17年よりも高い状態が続いています。



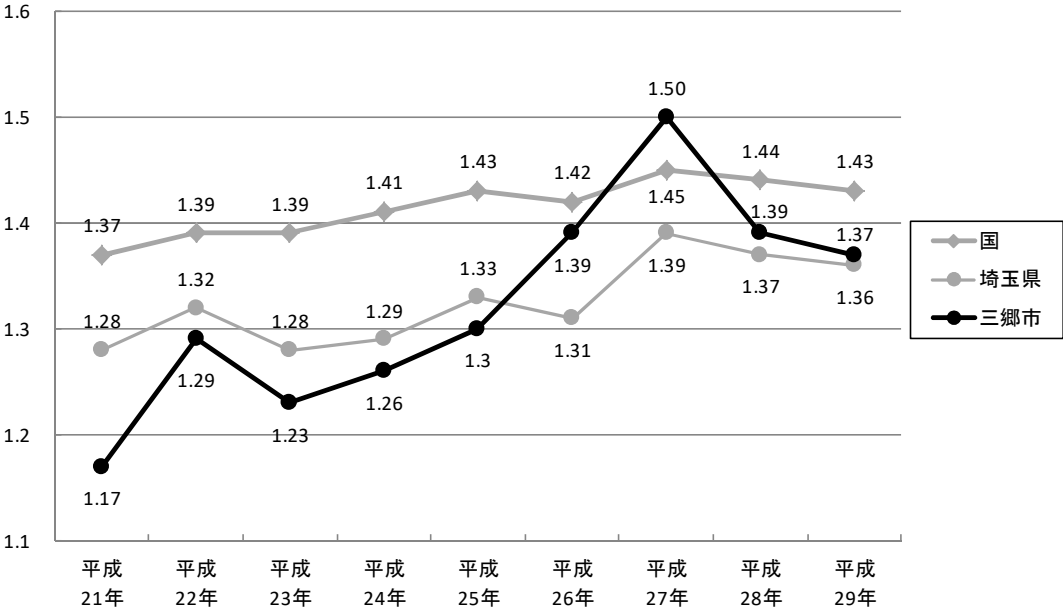
		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
全国	20～24 歳	86.4%	87.9%	88.7%	89.6%	89.3%
	25～29 歳	48.0%	54.0%	59.0%	64.1%	63.6%
	30～34 歳	19.7%	26.6%	32.0%	40.0%	39.2%
	35～39 歳	10.0%	13.8%	18.4%	28.8%	28.6%
三郷市	20～24 歳	84.5%	87.3%	87.3%	90.3%	89.0%
	25～29 歳	43.1%	55.5%	60.0%	66.1%	62.8%
	30～34 歳	14.9%	26.4%	34.2%	43.7%	37.8%
	35～39 歳	8.7%	11.4%	17.6%	33.7%	30.5%

資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）

2-2 合計特殊出生率

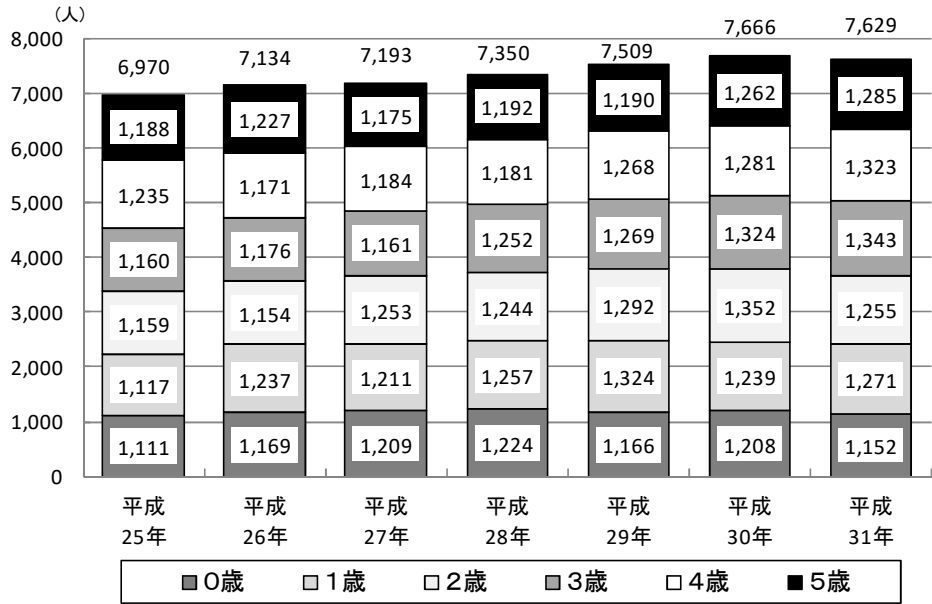
合計特殊出生率²について、平成25年までは全国よりも低いまま推移していましたが、平成26年に大きく増加し、平成27年には全国よりも高くなりました。その後は、再び全国よりも低くなりましたが、全国との差は小さくなっています。

埼玉県と比較すると、平成25年までは埼玉県をわずかに下回っていましたが、平成27年には埼玉県よりも高くなり、以降は埼玉県をわずかに上回っています



資料：厚生労働省人口動態統計、埼玉県保健医療部保健医療政策課

参考）三郷市の未就学児人口の推移

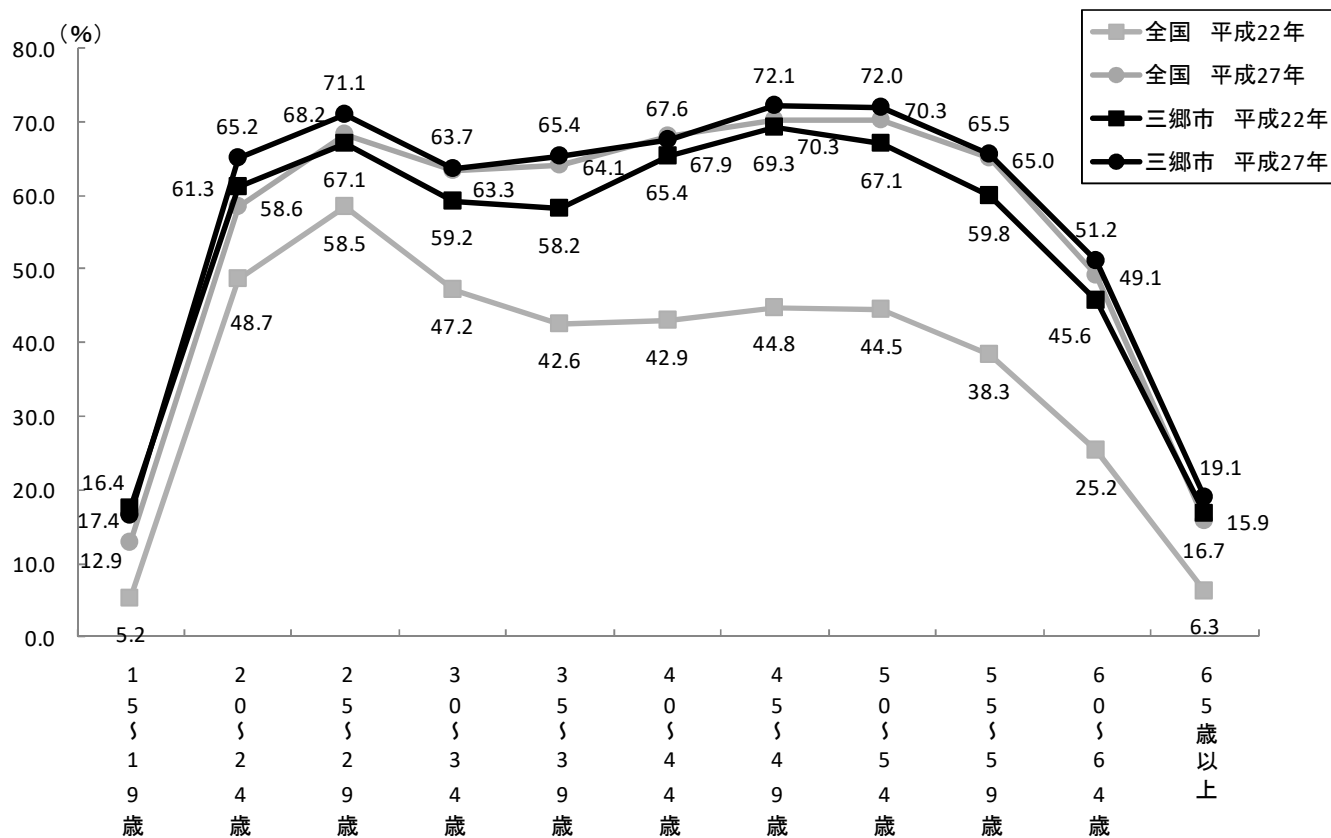


資料：みさと統計書

²各年次の出生の水準を表すもっとも代表的な指標です。人口動態統計によって、15～49歳までの女性の年齢別出生率の合計から計算されます。年齢別出生率とはその年に各年齢の人口のうち出生を経験する人の割合なので、合計特殊出生率は女性が一生涯にもつであろう平均的な子供の数であるともいわれています。

2-3 女性就業率

女性就業率について平成22年よりも平成27年の三郷市の女性就業率は全年齢で高くなっています。
 全国でも平成27年は平成22年よりも女性就業率は高くなっていますが、全国と比べて三郷市の増加の割合は小さくなっています。



資料:国勢調査(各年10月1日現在)

3 児童・生徒数の推移

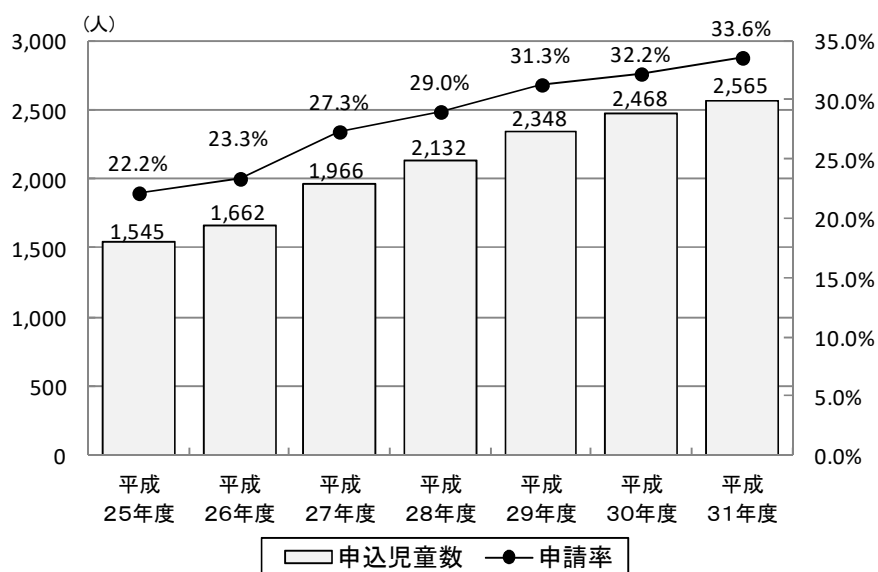
3-1 保育所入所申請件数及び入所児童数、待機児童数の推移

保育所入所申請件数及び保育所入所児童数の推移、待機児童数について、各年度の児童数を比べると、保育所入所申請件数では、申し込み児童数・申請率は増加を続けています。

保育所入所児童数は毎年増加しています。

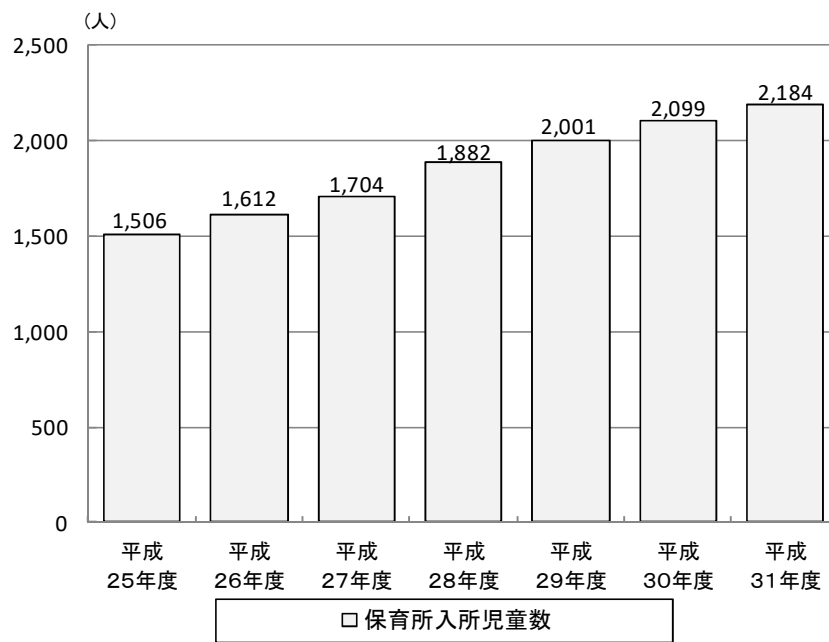
待機児童の年齢の内訳をみると、各年度で1歳児が多くなっています。

保育所入所申請件数



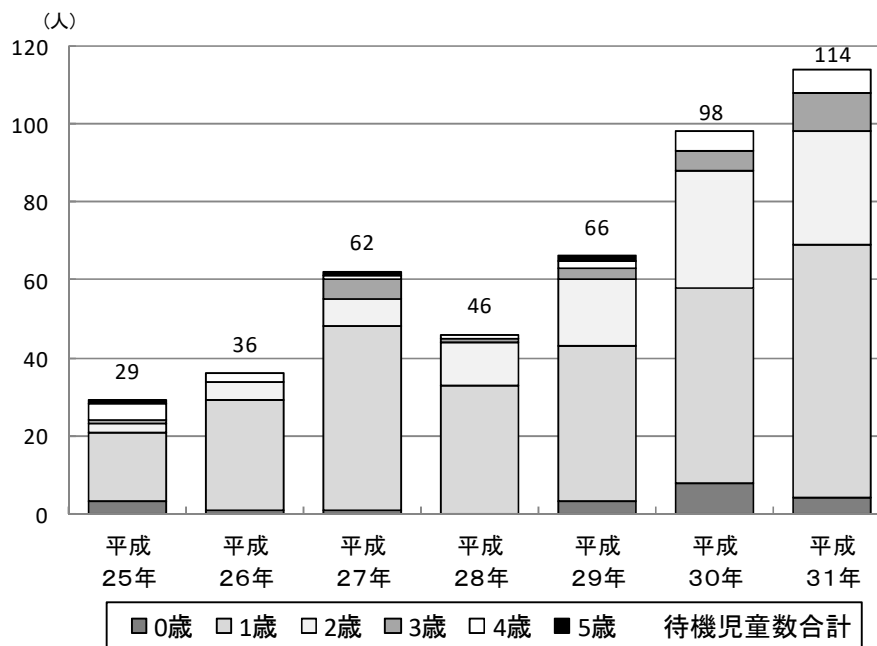
資料:すこやか課

保育所入所児童数の推移



資料:すこやか課

待機児童数

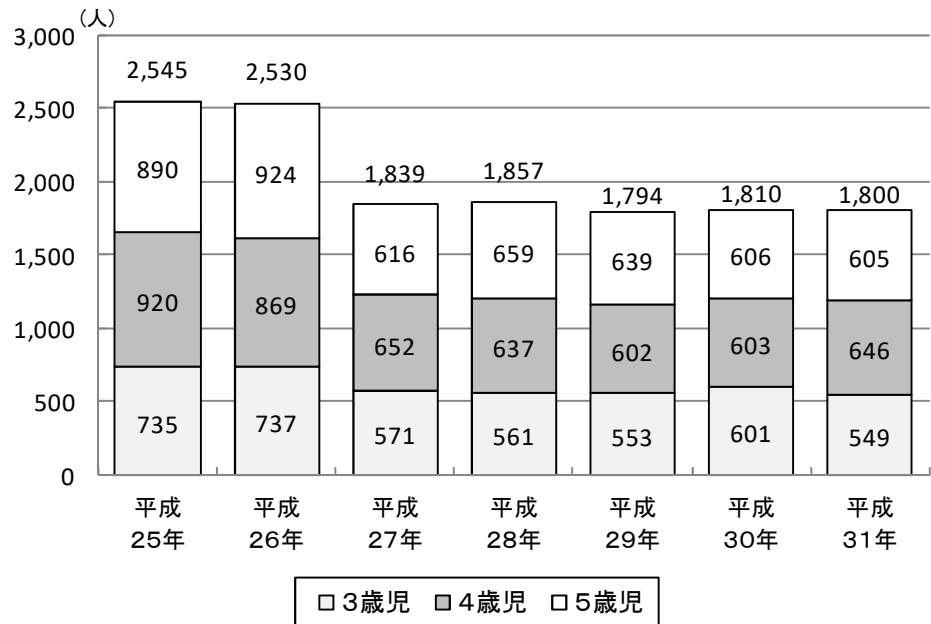


	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成31年
待機児童数 0歳	3	1	1	0	3	8	4
待機児童数 1歳	18	28	47	33	40	50	65
待機児童数 2歳	2	5	7	11	17	30	29
待機児童数 3歳	1	0	5	1	3	5	10
待機児童数 4歳	4	2	1	1	2	5	6
待機児童数 5歳	1	0	1	0	1	0	0
待機児童数 合計	29	36	62	46	66	98	114

資料:すこやか課 (各年4月1日現在)

3－2 幼稚園入園児童数

幼稚園入園児童数について減少傾向が続いていましたが、平成 29 年から平成 30 年では3歳児の増加に伴い、増加に転じました。平成 31 年には4歳児が増加しましたが、3歳児が減少したため合計人数は微減となりました。

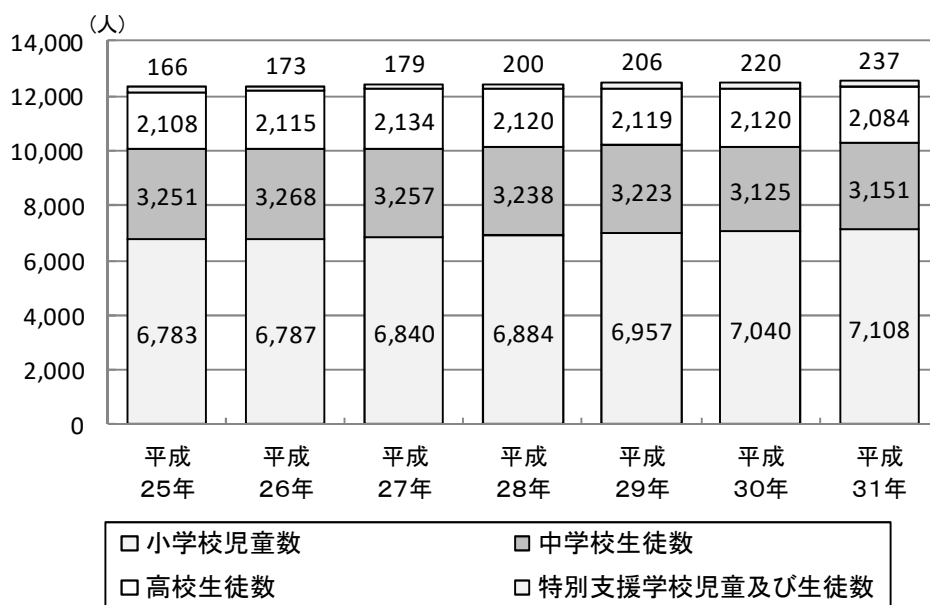


	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年
3歳児	735 人	737 人	571 人	561 人	553 人	601 人	549 人
4歳児	920 人	869 人	652 人	637 人	602 人	603 人	646 人
5歳児	890 人	924 人	616 人	659 人	639 人	606 人	605 人
合計	2,545 人	2,530 人	1,839 人	1,857 人	1,794 人	1,810 人	1,800 人

資料: 学校基本調査

3-3 学校の児童・生徒数

小学校児童数・中学校生徒数・高校生徒数・特別支援学校の児童及び生徒数について、小学校児童数、特別支援学校児童及び生徒数とも増加傾向、中学校生徒数は減少傾向、高校生徒数は横ばい傾向となっています。平成31年は小学校児童数、特別支援学校児童及び生徒数は引き続き増加していますが、中学校生徒数は増加に転じ、高校生徒数は減少しています。



	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年
小学校児童数	6,783 人	6,787 人	6,840 人	6,884 人	6,957 人	7,040 人	7,108 人
中学校生徒数	3,251 人	3,268 人	3,257 人	3,238 人	3,223 人	3,125 人	3,151 人
高校生徒数	2,108 人	2,115 人	2,134 人	2,120 人	2,119 人	2,120 人	2,084 人
特別支援学校児童及び生徒数	166 人	173 人	179 人	200 人	206 人	220 人	237 人

資料: 学校基本調査

4 アンケート調査結果

4-1 調査の概要

調査名	発送数	回収数	(内、ネット回収数)	回収率
①子ども・子育てニーズ調査				
就学前保護者調査	1,200 件	630 件	(内、163 件)	52.5%
小学生保護者調査	600 件	297 件	(内、81 件)	49.5%
②青少年の生活に関するアンケート調査				
小学5年生調査	113 件	113 件		100.0%
中学生調査	309 件	287 件		92.9%
15～18 歳調査	300 件	108 件	(内、18 件)	36.0%
合 計	2,522 件	1,435 件		56.9%

4-2 保護者の就労状況

就労中(産休・育休・介護休業中を含む)の母親は、52.7%となっています。

子どもの年齢別にみると、子どもが0歳では、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」が40.6%と多いですが、子どもの年齢が上がるにつれて少なくなり、母親が就労中である割合は増えています。

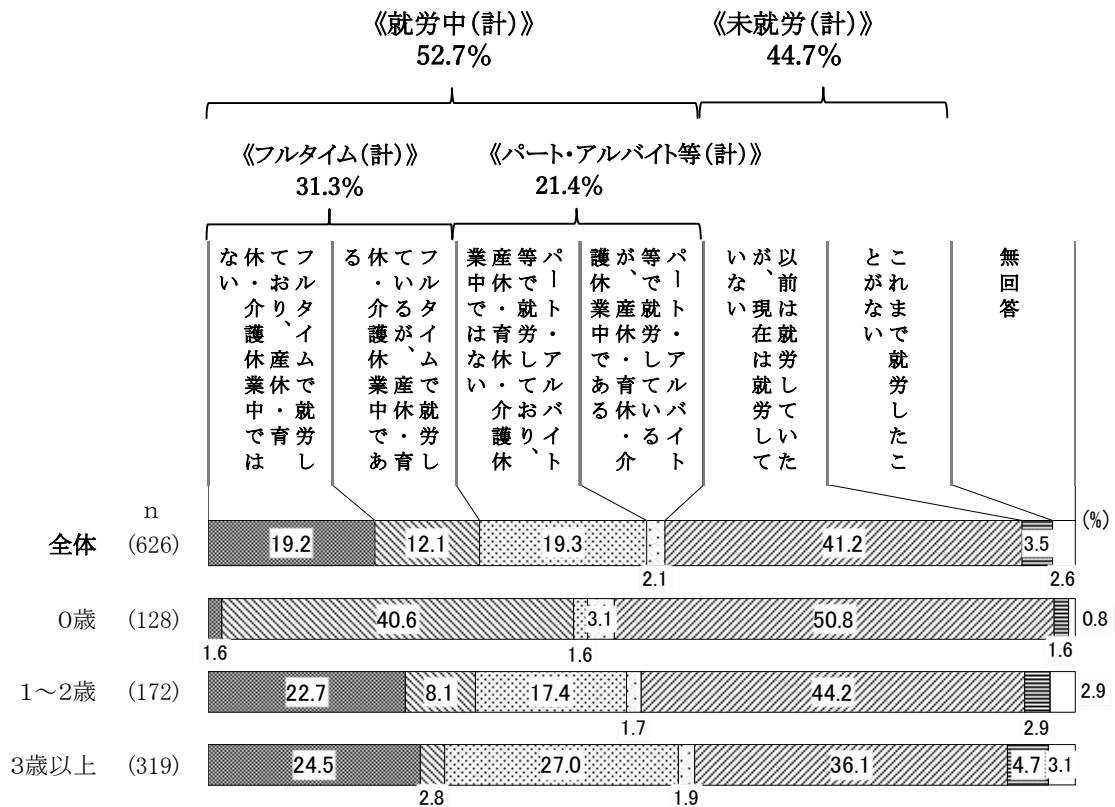
また、フルタイム就労(産休・育休・介護休業中を含む)は31.3%、パート・アルバイト等で就労(産休・育休・介護休業中を含む)は21.4%ですが、子どもの年齢が上がるにつれてフルタイム就労(産休・育休・介護休業中を含む)が少なくなり、パート・アルバイト等で就労(産休・育休・介護休業中を含む)が増えています。

現在就労していない母親の就労希望について、就学前保護者の場合、「1年より先に就労したい」が52.5%で最も多くなっています。一方、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」は就学前保護者の場合で22.1%となっています。

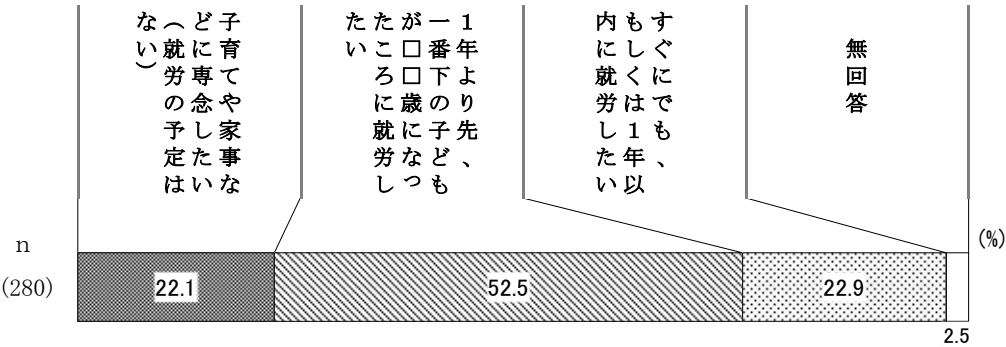
小学生保護者では、就労中(産休・育休・介護休業中を含む)の母親は65.3%となっています。

子どもの年齢別にみると、高学年は低学年と比べて「以前は就労していたが、現在は就労していない」が減少し、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が増加しています。

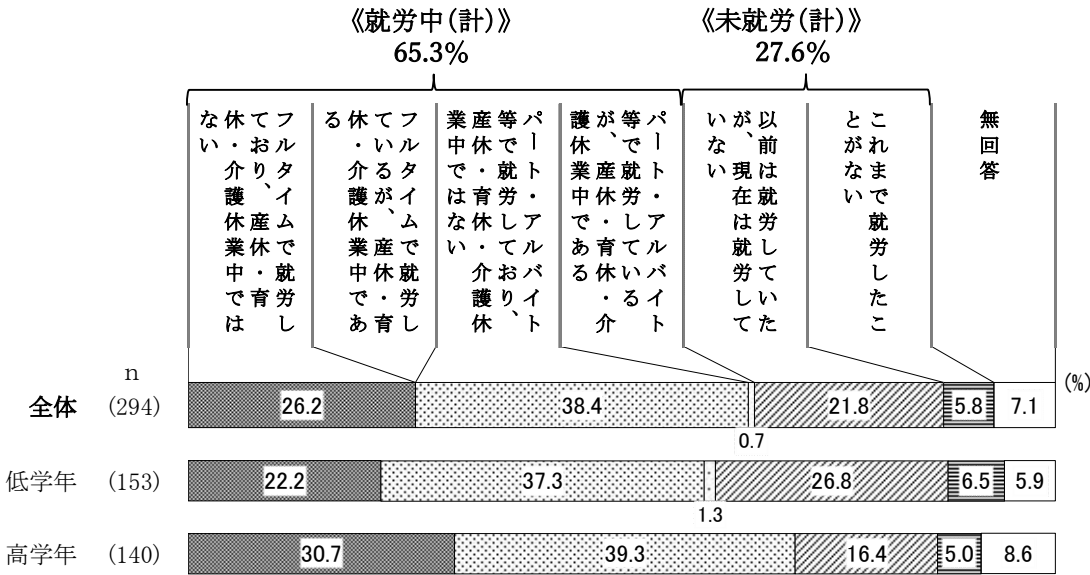
■母親の就労状況：子どもの年齢別(就学前保護者)



■母親の今後の就労希望(未就労の母親のみ)



■母親の就労状況:子どもの年齢別(小学生保護者)

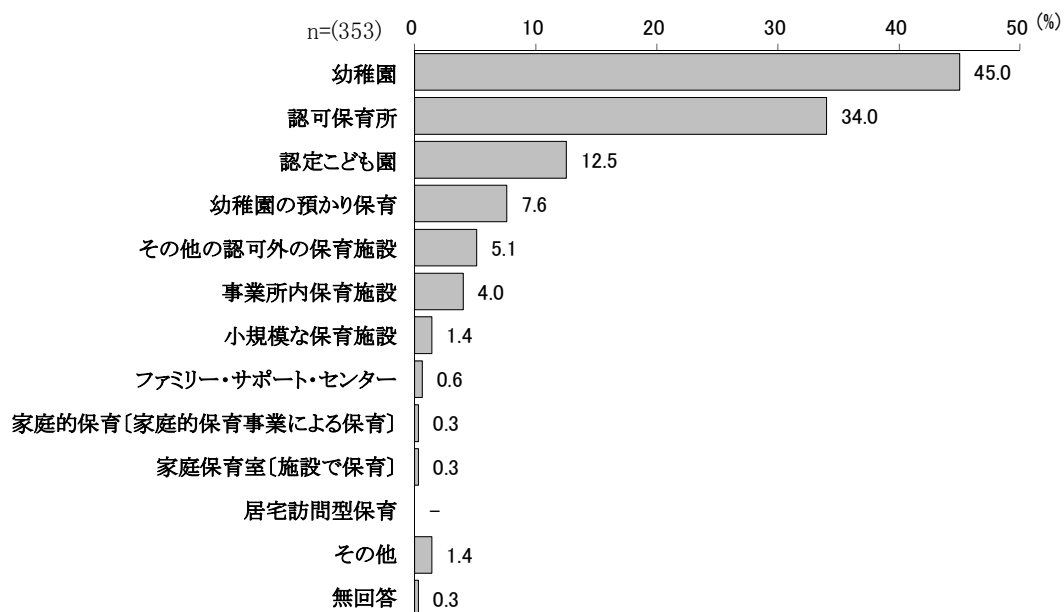


4-3 教育・保育事業の利用状況・意向

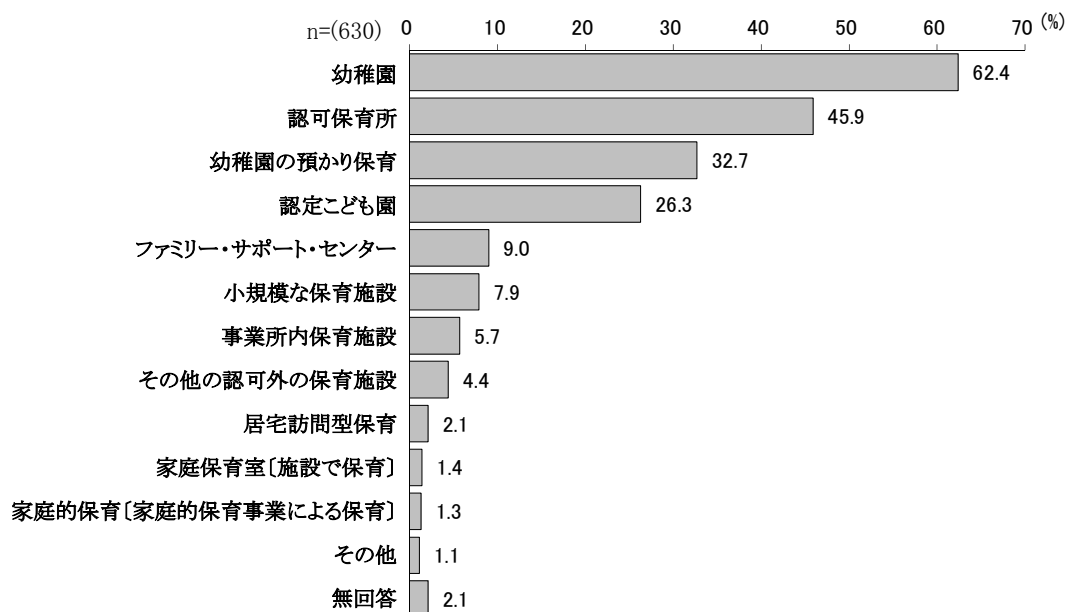
現在利用している教育・保育事業の種類は、上位より「幼稚園」「認可保育所」「認定こども園」の順になっています。

平日・定期的にご利用したいと考える事業は、上位より「幼稚園」「認可保育所」「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」「ファミリー・サポート・センター」「小規模な保育施設」の順になっています。

■平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（複数回答）（就学前保護者）



■平日・定期的にご利用したい事業（複数回答）（就学前保護者）



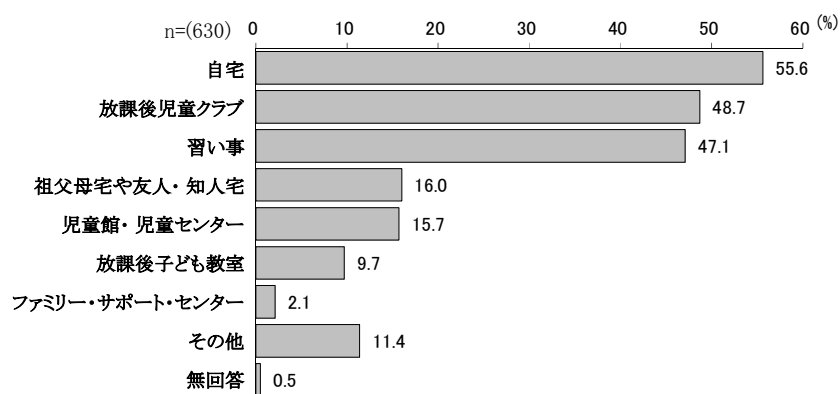
4-4 放課後の過ごし方の意向

就学前保護者に子どもが小学校低学年(1～3年生)の間は放課後の時間をどこで過ごさせたいかをたずねたところ、「自宅」が55.6%と最も多く、次いで、「放課後児童クラブ」の48.7%、「習い事」の47.1%となっています。

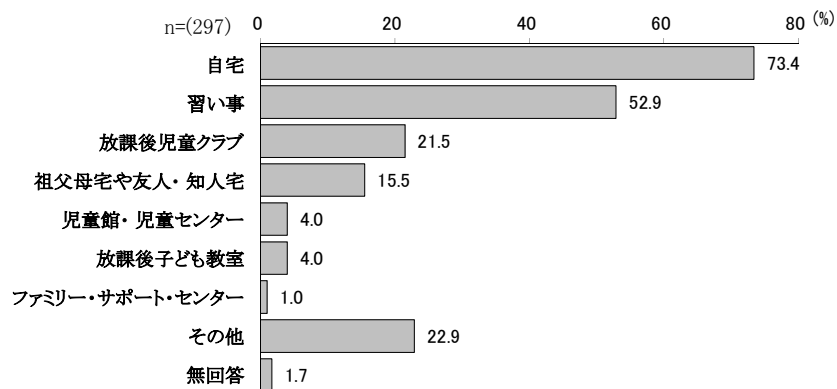
一方、小学生保護者では「自宅」と「習い事」が特に多くなっています。

また、小学生保護者に小学校高学年(4～6年生)の間は放課後の時間をどこで過ごさせたいかをたずねたところ、「自宅」が79.1%と最も多く、次いで「習い事」が63.0%、「祖父母宅や友人・知人宅」が17.5%、「放課後児童クラブ」が11.4%の順となっています。

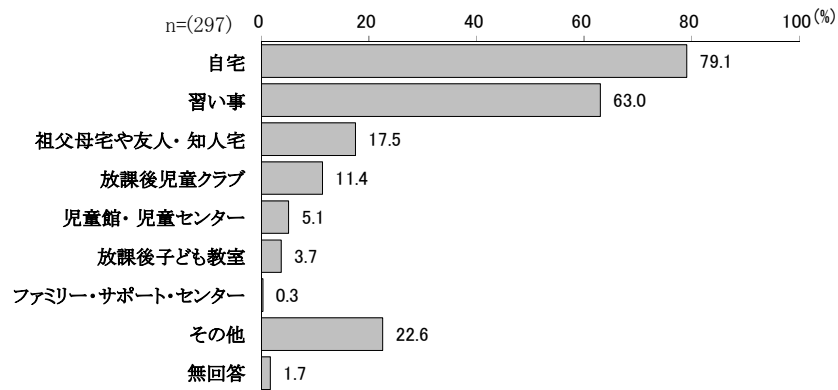
■低学年時に子どもを放課後過ごさせたい場所（複数回答）（就学前保護者）



■低学年時に子どもを放課後過ごさせたい場所（複数回答）（小学生保護者）



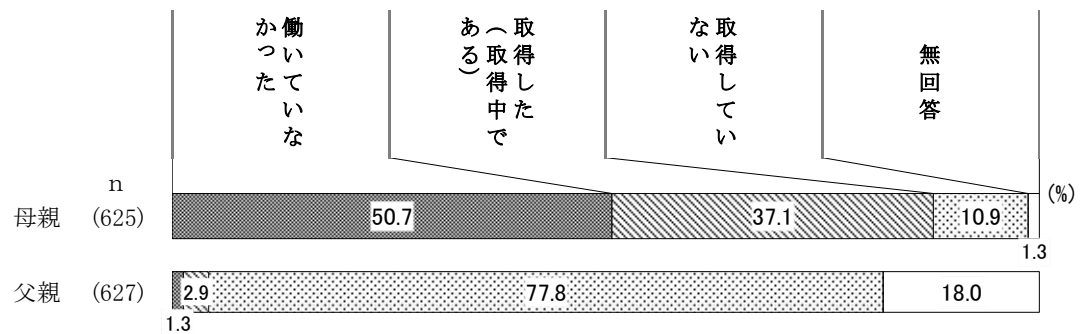
■高学年になった場合に子どもを放課後過ごさせたい場所（複数回答）（小学生保護者）



4-5 育児休業制度の取得状況

育児休業の取得割合は、母親で37.1%、父親で2.9%となっています。

■育児休業の取得状況（就学前保護者）

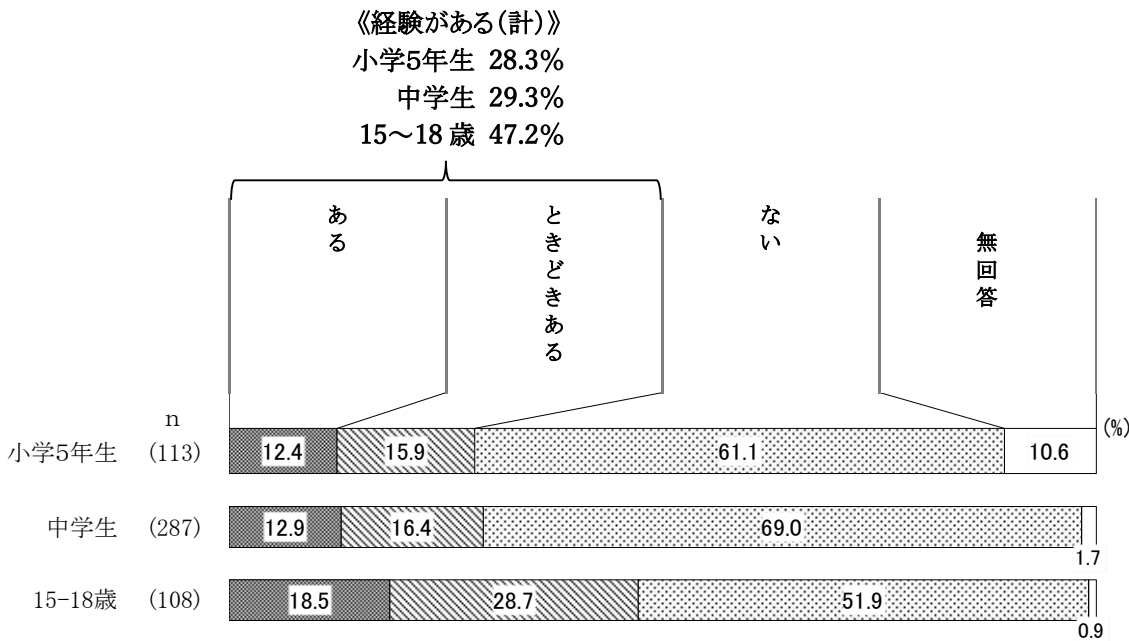


4－6 子どもの状況

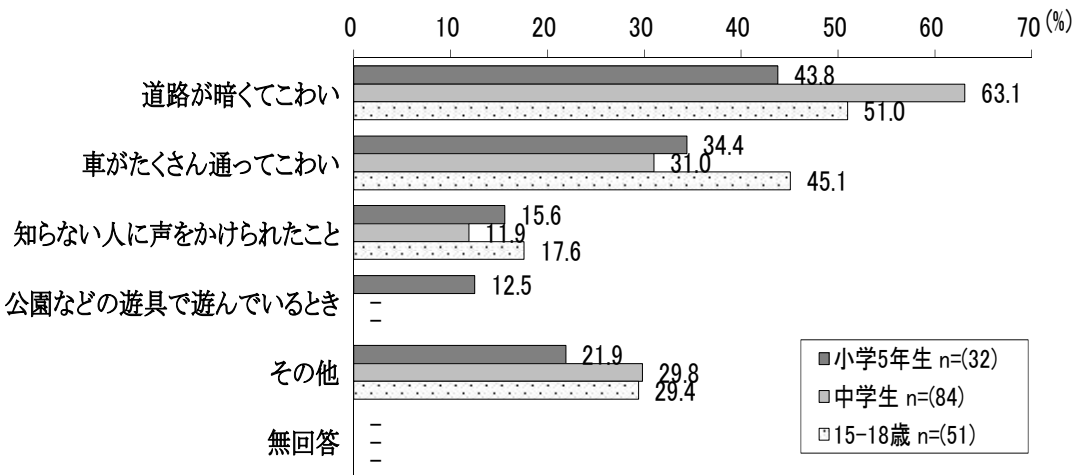
通学途中や遊んでいるときに危ない(こわい)と思った経験について、「ある」と「ときどきある」を合わせた割合は、小学5年生で28.3%、中学生で29.3%、15～18歳で47.2%となっています。15～18歳になると、約2人に1人が怖い、またはいやな思いをした経験があると回答しています。

危ない(こわい)と思ったことが「ある」または「ときどきある」と回答した方に危ない(こわい)と思ったとき(こと)をきいたところ、「道路が暗くてこわい」が最も多く、次いで「車がたくさん通ってこわい」が多くなっています。

■通学途中や遊んでいるときに危ない(こわい)と思った経験: 学年別



■危ない(こわい)と思ったとき(こと): 学年別 (複数回答)

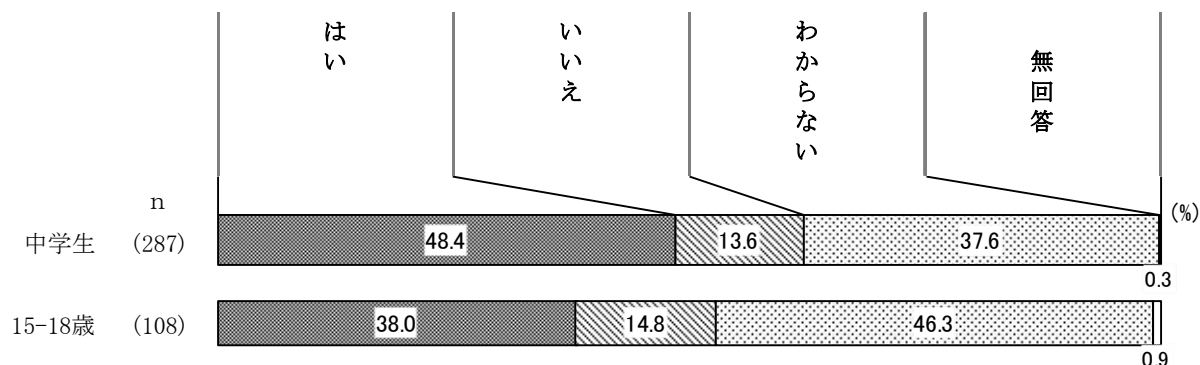


地域のボランティア活動への参加意欲について、「はい」の割合は、中学生で48.4%、15～18歳で38.0%となっています。また、「わからない」の割合は、中学生で37.6%、15～18歳で46.3%となっています。

悩みごとや心配ごとについて、小学5年生では「勉強や進学のこと」(33.6%)、「将来の仕事のこと」(32.7%)がともに3割台と多くなっています。中学生、15～18歳になると「勉強や進学のこと」「お金のこと」「恋愛のこと」が多くなっています。

また、中学生は他の学年と比べて「友達や仲間のこと」「性格のこと」「家族のこと」の割合が多くなっています。

■地域のボランティア活動への参加意欲:学年別



■悩みごとや心配ごとの有無:学年別 (複数回答)

